

＼横浜の環境をどのように感じ、行動をしている？／ 「環境に関する市民意識調査」の結果がまとまりました

横浜市では、市民の環境に関する意識や環境行動の実践状況等を把握する「環境に関する市民意識調査」を実施しています。

この度、令和5年度の調査結果がまとまりましたので、お知らせします。

調査結果（概要）は、別添資料のとおりです。また、クロス集計や経年比較を含む調査報告書は、以下のウェブページで公開しています。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/shiminchousa.html>



二次元コード

調査結果の要点

環境や環境の取組に関心がある人 **88.4%**（問1）

● 個人でできる環境に配慮した行動（＝環境行動）の実践状況（問2）

- ・買い物時の工夫など、食べ残しや食材のムダ（食品ロス）を減らしている人※1 **94.8%**
- ・環境に配慮された製品・商品を選んで購入している人※1 **73.6%**
- 多くの人が買い物時から環境に配慮をしている

※1「している」・「たまにしている」人の割合の合計

● 「レンタルやシェア」の利用意向がある人※2 **80.6%**（問4）

- ・このうち、車や自転車などの「移動手段」を利用した／したい人 **62.3%**（問4-A）

※2「すでに利用している」・「今は利用していないが今後利用したい」人の割合の合計

● 「生物多様性」の認知度

- ・「生物多様性」という言葉の意味を知っていた／聞いたことがあった人 **70.7%**（問6）

● 「脱炭素化」に向けて、積極的に・工夫しながら行動したい人 **63.5%**（問8）

- ・このうち、「すぐにも」、「1年以内に」行動したい人 **73.5%**（問8-A）

調査の概要

- ・期間： 令和5年7月4日～7月25日
- ・対象： 16歳以上の市民3,000人
- ・方法： 郵送による無記名調査（全13問）
- ・回答： 1,323人（回収率44.1%）



横浜で初めて行う
万国博覧会

2027年3月19日～
9月26日開催

お問合せ先

環境創造局政策課長 長尾 哲也 Tel 045-671-2686

2023年度 環境に関する市民意識調査の結果（概要）

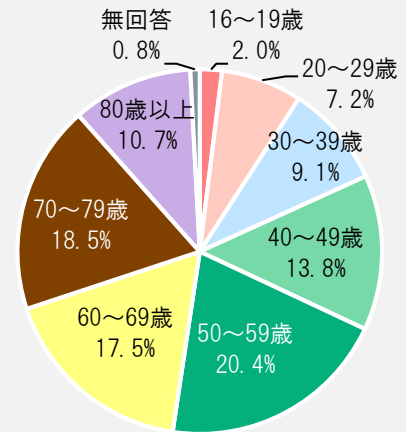
横浜市では、2023年7月に市内在住の16歳以上3,000人を対象に、環境に関する意識調査を実施しました。調査結果は、環境管理計画や市の中期計画に掲げた目標・施策の進捗評価や環境施策の基礎資料として活用します。

注：各グラフの割合の値は、四捨五入した数値となっています。

そのため、グラフ内の数値をすべて足し上げても、100%にならない場合があります。

◆調査概要

- 期間：2023年7月4日（火）～7月25日（火）
- 対象：16歳以上の市民3,000人
（住民基本台帳から無作為抽出）
- 方法：郵送による無記名調査
（郵送・インターネットによる回答）
- 回答：1,323人（回収率44.1%）
（内訳：郵送回答66.3% インターネット回答33.7%）

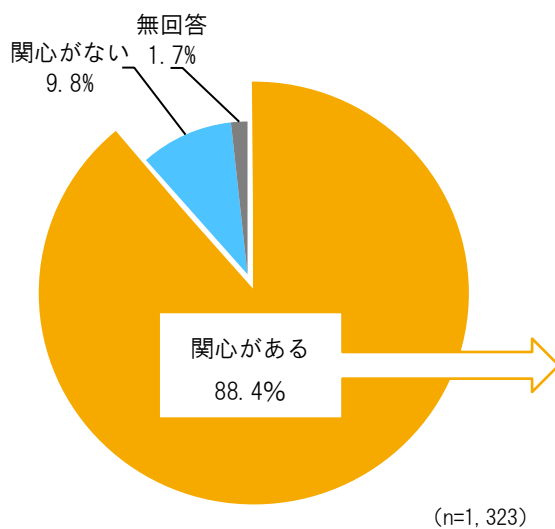


◆調査結果

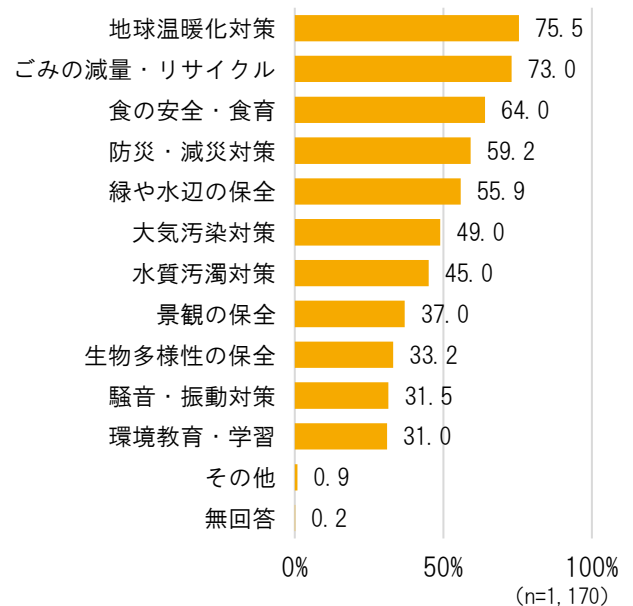
1 環境や環境の取組への関心について

- ・ 環境や環境の取組に「関心がある」人は88.4%
- ・ 関心がある項目の上位は、「地球温暖化対策」、「ごみの減量・リサイクル」、「食の安全・食育」、「防災・減災対策」の4項目で、過去5か年で変化なし

問1 環境や環境の取組に関心がありますか
（〇は一つ）



問1-A 関心がある項目を教えてください
（〇はいくつでも）【問1で「関心がある」と答えた人】



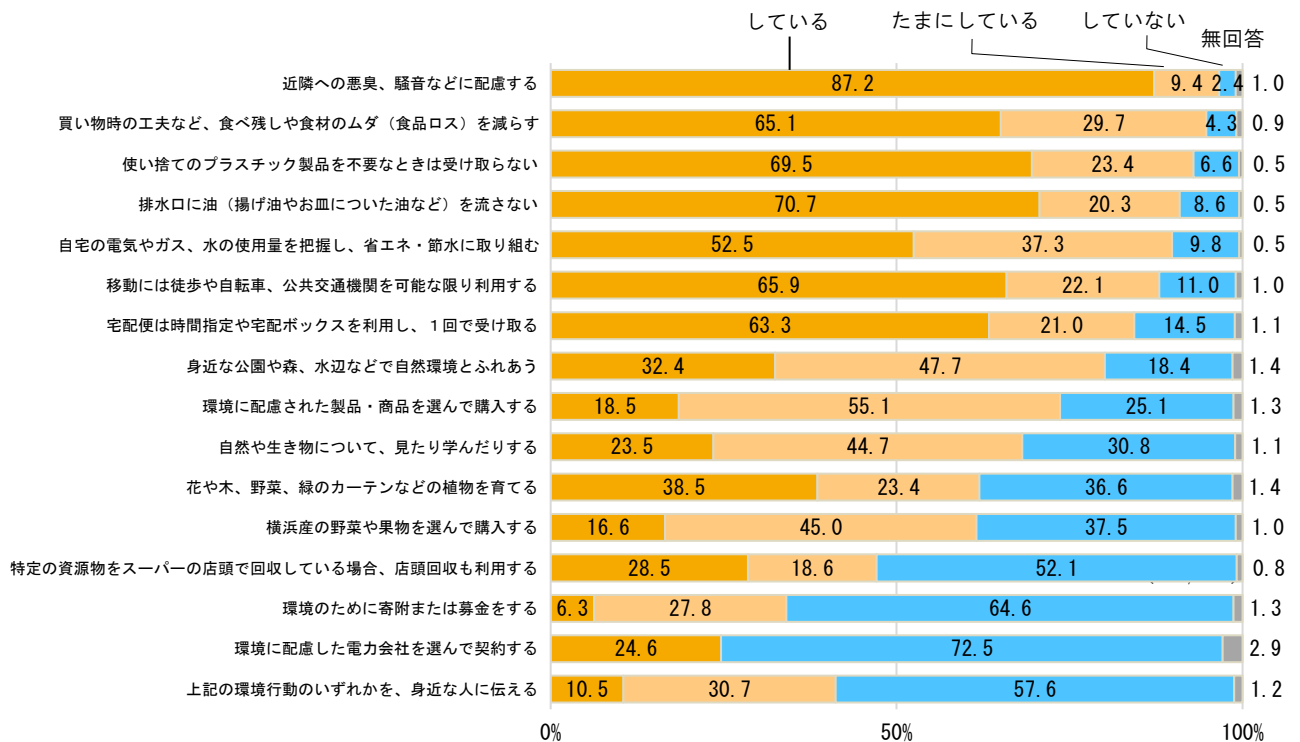
2 環境に配慮した行動（＝環境行動）の実践状況について

➤ 環境行動の実践

- ・「買い物時の工夫など、食べ残しや食材のムダ（食品ロス）を減らす」は、「たまにしている」人も含めて、94.8%の人が実践しており、日常生活に定着した行動となってきたと考えられる
- ・「環境に配慮された製品・商品を選んで購入する」は、73.6%※の人が実践、そのうち「たまにしている」人は5割を超え、商品や値段等によっては半数以上の人が実践していると推察される

※「している」・「たまにしている」人の割合の合計

問2 普段、次にあげる個人でできる環境行動をしていますか（それぞれに○は一つ）

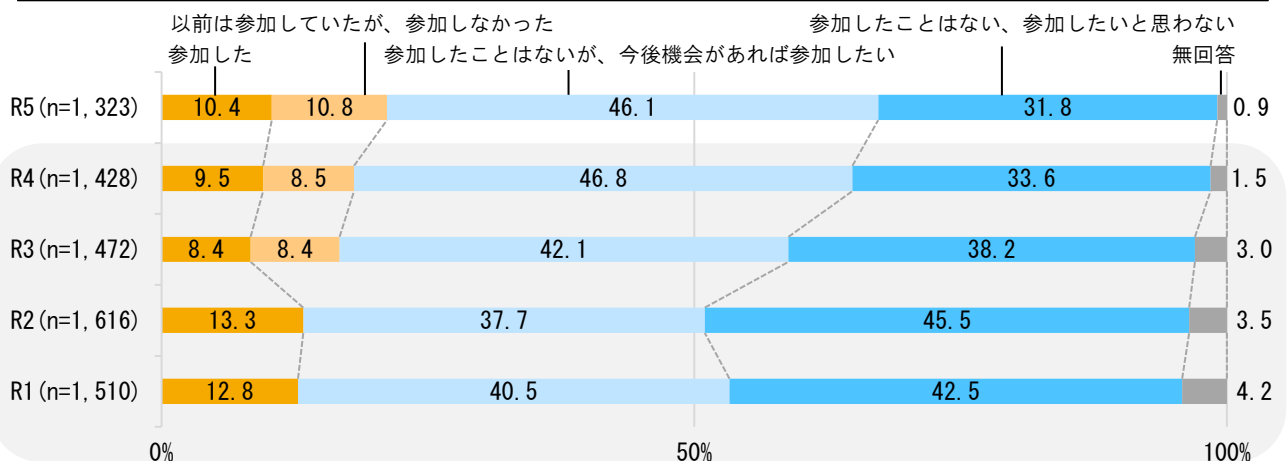


※「環境に配慮した電力会社を選んで契約する（再生可能エネルギーで発電する会社など）」は選択肢「たまにしている」がないため、省略している

3 環境活動や環境活動団体への参加

- ・「参加した」（10.4%）がR4年度（9.5%）、R3年度（8.4%）より高く、年々増加傾向にある
- ・「参加したことはないが、今後機会があれば参加したい」（46.1%）は、昨年度（46.8%）より0.7%低いですが、R3年度以前と比較して増加傾向にあり、「参加したことはない、参加したいと思わない」がR2年度より減少傾向にあることから、環境意識が高まっていることがうかがえる

問3 ここ1年間に環境活動や環境活動団体に参加しましたか（○は一つ）

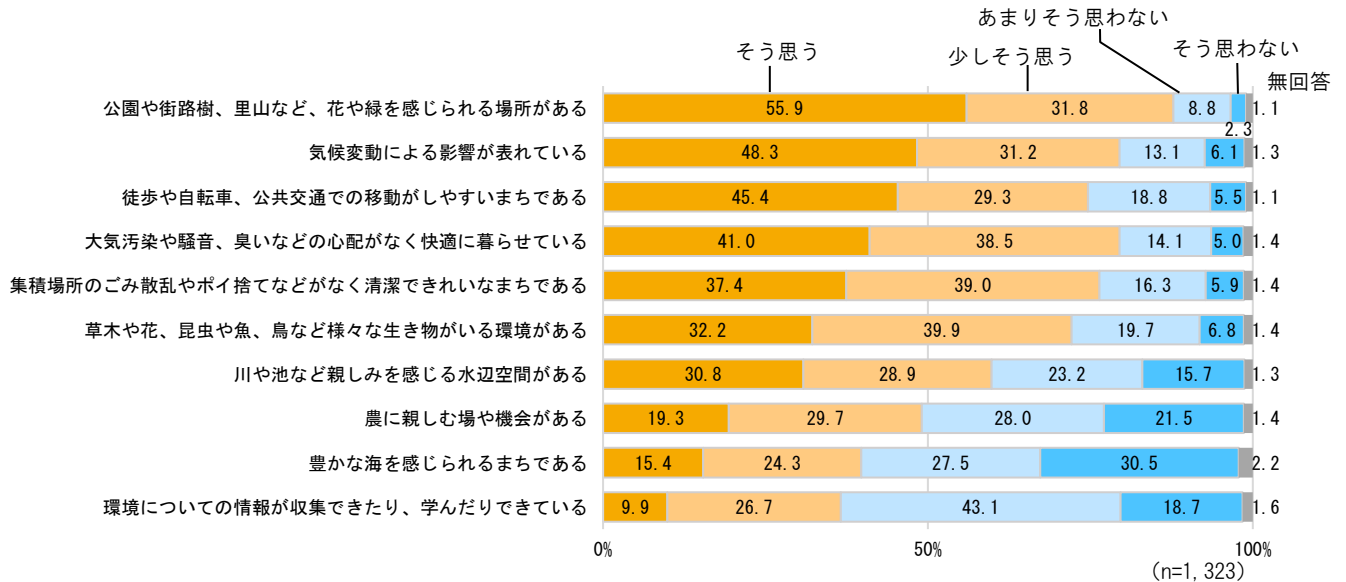


4 身のまわりの環境について

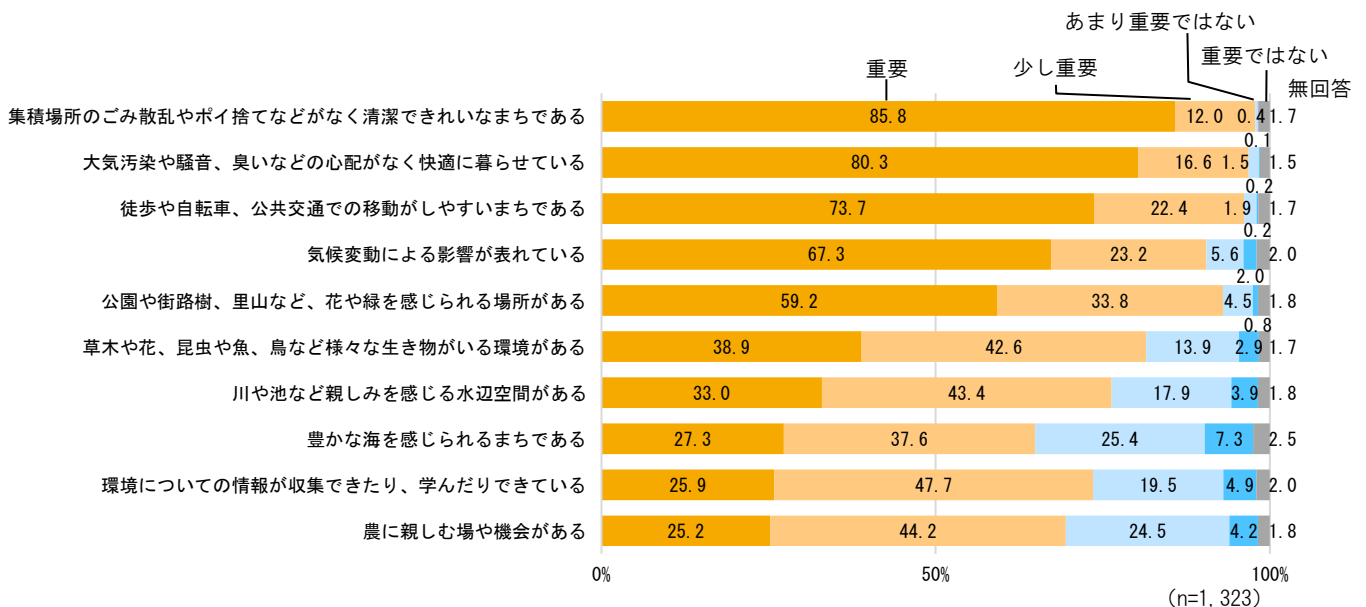
- ・「公園や街路樹、里山など、花や緑を感じられる場所がある」と感じている人は、87.7%※で最多
- ・「集積場所のごみ散乱やポイ捨てなどがなく清潔できれいなまちである」が重要だと考える人は、97.8%※で最多

※「そう思う」・「少しそう思う」または「重要」・「少し重要」と考える人の割合の合計

問5① 次にあげる身のまわりの環境についてどのように感じていますか（それぞれに○は一つ）



問5② 次にあげる身のまわりの環境についてどのくらい重要ですか（それぞれに○は一つ）



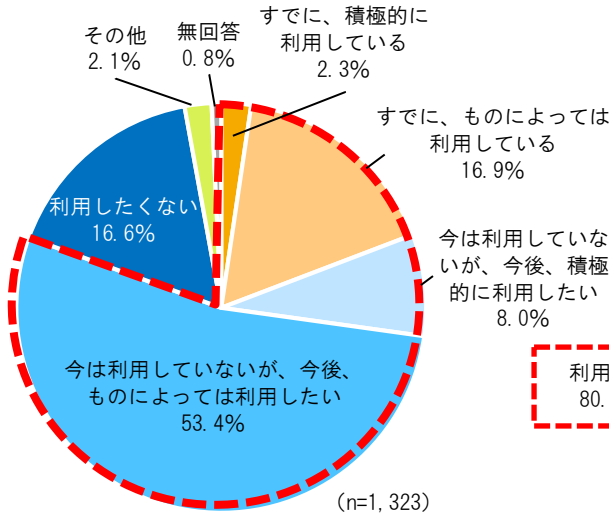
5 物をレンタルやシェアで利用することに対する考えについて

・「利用意向がある」*人の割合は 80.6%

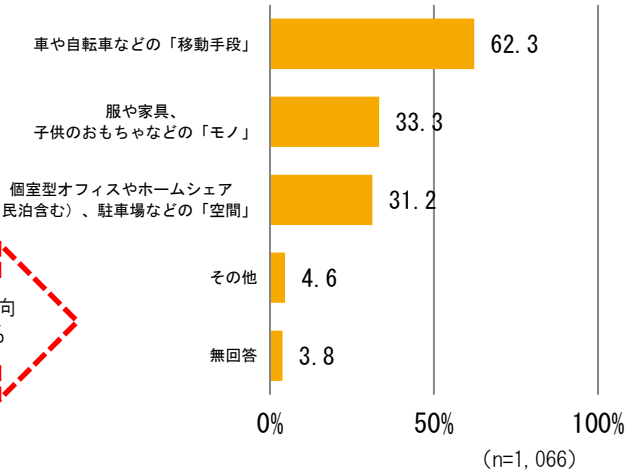
・利用した、利用したいサービスの中で「車や自転車などの『移動手段』」は、62.3%と最多

※「すでに、積極的に利用している」・「すでに、ものによっては利用している」・「今は利用していないが、今後、積極的に利用したい」・「今は利用していないが、今後、ものによっては利用したい」人の割合の合計

問4 物をレンタルやシェアで利用することについてどのように考えますか (○は一つ)



問4-A 利用したことのあるまたは利用したいサービスの対象はありますか (○はいくつでも)



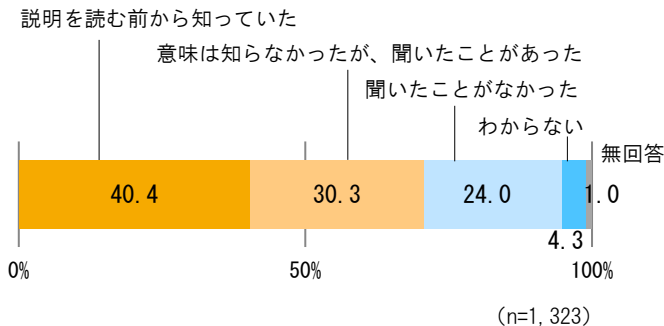
6 市の環境の取組について

➤ 生物多様性と自然の恵み

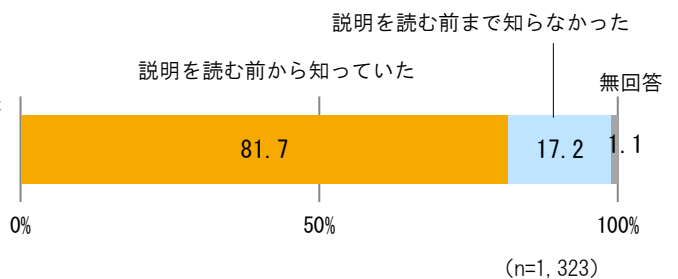
- ・「生物多様性」という言葉の認知度*は、昨年度 (61.4%) から約 9.3 ポイント増加して 70.7%
- ・普段の生活が「自然の恵み」に支えられていることに対する認知度は、81.7%
- ・「生物多様性」の言葉の意味を知っている割合が約 4 割、普段の生活が「自然の恵み」に支えられていることを知っている割合が約 8 割であった

※「説明を読む前から知っていた」・「意味は知らなかったが、聞いたことがあった」人の割合の合計

問6 「生物多様性」という言葉の意味を知っていましたか (○は一つ)



問7 あなたは普段の生活が「自然の恵み」に支えられていることを知っていましたか (○は一つ)



➤ 脱炭素化の実現に向けて

- ・脱炭素化に向けて、「積極的に・工夫しながら行動したい[※]」と考える人は、63.5%
- ・「積極的に・工夫しながら行動したい[※]」と考える人のうち、「すぐにでも」・「1年以内に」行動したいと考える人の割合の合計は、昨年度と同様に7割を超え、引き続き脱炭素化に対する意識の高まりがうかがえる

※「今の生活スタイルを大きく変えて、積極的に行動したい」・「今の生活スタイルの中で工夫しながら、行動したい」人の割合の合計

問8 脱炭素化に向けて、あなたは、どのように行動をしたいと考えますか（○は一つ）

問8-A その行動は、いつ頃からしたいと考えますか（○は一つ）

